

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2871000473		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県芦屋市松浜町13-18 (電話)0797-25-1732		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年12月19日

【情報提供票より】 (19年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月15日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	26人	常勤19人, 非常勤7人, 常勤換算21.45人	

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造	造り
	2階建ての	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	93,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 / 無(186,000円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	450円
	夕食	550円	おやつ	300円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要 (8月7日現在)

利用者人数	27名	男性	2名	女性	25名
要介護1		要介護2			
要介護3		要介護4			
要介護5		要支援2		2	
年齢	平均 88.2歳	最低	82歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村病院・戸島歯科・南あしや浜病院
---------	-------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪神芦屋駅に近い、閑静な住宅街の中にあるグループホームである。玄関には季節の花々と大きな木が植えられており、木は枝を広げ木陰を作りその下には腰掛用のベンチを置き入居者や近隣の方々との交流の場になるよう配慮されている。共有スペースは明るく、季節の飾りつけがなされ、目にするもの、手にするものが五感の刺激となるような工夫がなされている。職員は利用者一人ひとりに明るく丁寧にし、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で高齢者の尊厳を大切にされた支援がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	介護記録の考察の覧を省いて記録の時間が短縮された。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 昨年までは、全職員で自己評価に取り組んだが、今年度は職員の欠員もあり、一部の職員に自己評価表を配布し、提出されたそれぞれの自己評価を管理者がまとめた。職員は毎年受審し、日々のケアの振り返りをおこない、質の向上につなげる取り組みを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 昨年度の評価で指摘を受け、運営推進会議を包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表者の参加により1回開催した。開催時には、ホームの現状報告や第三者評価の結果報告を行い、参加者から多くの意見やアドバイスがあった。現在、施設の人員配置の問題もあり運営推進会議の日程を決めることができない状態である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族に声かけを行い、意見や不満・苦情を積極的に聴く姿勢がある。ホームの玄関に法人全体で行っている「介護なんでも相談室」のポスターを掲示しホームだけでなく法人全体で家族の意見や・不満・苦情を表せる機会を作っている。出された意見・不満・苦情は、現場に伝え早期に改善できるように努め運営に反映していく取り組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に加入し廃品回収への参加を継続している。ホームを老人会の集会場として開放し、利用者が地域とつながりながら暮らしていくことができる基盤づくりを行っている。ホームの行事は近隣の案内状の配布を継続し参加を呼びかけている。今年度は、近隣の子どもの夏祭りへの参加・地域の秋祭りのだんじりのコースを変更しての来訪がある等地域とのつながりが深まりつつある

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えることが出来るように法人理念を基に事業所独自の理念を作り上げている。法人理念を基に利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくことを明文化した事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に職員全員で理念を唱和し常に理念を意識して日々のケアに生かせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し廃品回収への参加を継続している。ホームを老人会の集会場として開放し、利用者が地域とつながりながら暮らしていくことができる基盤づくりを行っている。ホームの行事は近隣への案内状の配布を継続し参加を呼びかけている。、今年度は、近隣の子どもの夏祭りへの参加・地域の秋祭りのだんじりのコースを変更しての来訪がある等地域とのつながりが深まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年までは、全職員で自己評価に取り組んだが、今年度は職員の欠員もあり、一部の職員に自己評価表を配布し、提出されたそれぞれの自己評価を管理者がまとめた。職員は毎年受審し、日々のケアの振り返りをおこない、質の向上につなげる取り組みを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年度の評価で指摘を受け、運営推進会議を包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表者の参加により1回開催した。開催時には、ホームの現状報告や第三者評価の結果報告を行い、参加者から多くの意見やアドバイスがあった。現在、施設の人員配置の問題もあり運営推進会議の日程を決めることができない状態である。</p>		<p>運営推進会議は、地域との交流・理解を深め、家族や地域住民、知見を有する方からサービスの質の確保を図るためにも、概ね2ヶ月に1回の定期的な開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者には、地域との関わり方を相談したり、利用者の成年後見制度や住民票を移したい方の相談をしたり、市からの通達の詳細の説明を受けるなどし、積極的に関わりを持つ努力を行っている。市内の介護事業者サービス連絡会やグループホーム連絡会にも参加し悩みの相談や課題解決へ向けた取り組みを行っている。</p>		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会は多く、面会時に介護記録などに目を通してもらいながら口答で日々の様子を報告している。金銭出納帳にも目を通してもらい確認サインをもらうようにしている。遠方で面会に来ることが困難な家族には、電話で日々の様子や健康状態など口答で報告する他、請求書発送時に近況のメモや行事の写真などを送り報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族に声かけを行い、意見や不満・苦情を積極的に聴く姿勢がある。ホームの玄関に法人全体で行っている「介護なんでも相談室」のポスターを掲示しホームだけでなく法人全体で家族の意見や・不満・苦情を表せる機会を作っている。出された意見・不満・苦情は、現場に伝え早期に改善できるように努め運営に反映していく取り組みがある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内・ホーム内での移動はあるが、馴染みの関係の重要性を理解しており、最小限に抑えるように配慮している。移動や離職での移動がある場合も利用者へのダメージを考え、新職員と移動・離職する職員が可能な限り引継ぎの期間を持つように努力している。また、普段より行事などを通じてユニット間の交流を持ち、他のユニットの利用者とも顔馴染みの関係を築き、移動時のダメージを最小限にする取り組みがある。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホームで年間研修計画を立て実施するほか、法人全体で年間研修計画を立て、各センター持ち回りで食事・認知症のカンファレンス・身体介護などの研修を実施している。実施した研修は、資料の配布や朝礼・会議時に内容をまとめて報告し職員の習熟度を高めるように取り組んでいる。</p>		<p>法人全体の年間研修計画の受講は継続し、今後はホーム職員の習熟度や希望を把握、習熟度や個々の職員の目標にあわせ、段階的な学びの機会を確保する為の年間研修計画の作成を期待する。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>芦屋市介護事業者サービス連絡会やグループホーム連絡会に参加し意見交換や交流を図り、課題解決へ向けた取り組みを行っている。他のホームの行事にも参加し交流の機会を持っている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族からの利用申込みが殆どであり、本人が納得した上でサービス利用開始ができるよう、職員・管理者が自宅訪問を行ったり、食事や行事にあわせてホームへ来てもらいホームの雰囲気に慣れてもらい、なじみの関係を築き入居に至るよう支援している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の思いや意向、有する能力の把握に努め、個々の利用者がその人らしく過ごせる支援をする一方、職員は、利用者より料理や日本古来の行事の意味など教えてもらい共に協力し日常生活を送っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者の話を傾聴し、顔の表情や言葉・動きから本人の思いや意向の把握に努めている。利用者より思いを十分に訴えられない場合も家族よりの情報や日々のケアでの気づきや観察から本人本位の視点に立ち意向の把握をおこなっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族・かかりつけ医から得た、利用者の心身の状況・生活背景を参考にご家族、主治医の意見や希望をもとにスタッフとカンファレンスを行い利用者個々の具体的な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日目標に沿った介護を実施し記録している。毎月1回モニタリングを実施し、3ヶ月に1回計画の見直しを行っている。急な変化についてはその都度見直しを行い介護計画を変更している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の状況に応じて通院の支援を行っている。また、美容院・買物など要望に応じて柔軟に個別の外出支援を行っている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的に利用者・家族が希望する医療機関の受診ができるようになっている。希望がない場合はGHへ2週間に1回協力医療機関の内科医による往診がある。往診や受診の報告はその都度電話で連絡し、状況に応じてDrからの連絡等により情報交換を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期のあり方について説明し同意を得るようにしている。状況の変化によって本人・家族をはじめ関係者が繰り返し話し合いその時々段階でそれぞれの思いや要望などを確認している。また、関係者全員が方針を共有できるように、定期的な研修会を実施し積極的に取り組んでいる。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者個々の生活歴などを大切に一人ひとりの誇りを傷つけないよう対応している。個人情報については、入社時に契約し、個人情報保護法の理解や漏洩防止・秘密保持の徹底を図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課表を作成しリズムのある生活を大切にしているが、日課を優先することなく入居者一人ひとりの希望に添って、個々のペースを大切に支援を行っている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事に関しては献立・食材の納入は法人を通して行われ、法人の管理栄養士により管理されている。献立は入居者の希望により変更されることもある。調理・盛り付け・配膳など食事作りは全員で行い、スタッフと入居者が同じテーブルを囲み出来上がりの感想を聞きながら楽しく食事ができるようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能となっている。基本的に同性介助、個浴としている。浴槽が二つあり、気の合った方が二人で入る事もできる。入浴に抵抗を示される方に対しては言葉かけや対応を工夫し一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。入浴はチェック表で確認し強く抵抗を示される方も最低でも週2回は入って頂けるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・現在の力量に応じ、食事の支度・配膳・食器洗い物片付け、掃除機をかける、洗濯干し・草花の水やり等、それぞれの役割を持ちその方の楽しみになるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅への外出支援、散歩、買物やドライブなど、一人ひとりの希望に合わせた外出支援を心がけ、気分転換やストレスの発散ができるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない暮らしの重要性を認識したうえで、安全面に配慮しながら、外を覗く仕草や入り口付近に立つ利用者の姿を見た場合は一緒に外に出て散歩する等、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を実施。実施前には近隣にちらしを配布し協力を求めている。災害に備えた備品については法人の兵庫ブロック(姫路)に非常食や水を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じた確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養や水分摂取量を毎日チェック表に記録し把握している。むせたり、飲み込みが悪くなった方についてはキザミ食やトロミ食など食べる意欲を損ねないよう工夫しながら支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチを置き季節の移り変わりが体感できるスペースとなっている。居間には季節の飾りつけがなされ五感の刺激になるよう配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット、カウンターは設置されている。家具タンス・鏡台・仏壇・TV等、馴染みの家具を配置し居心地良く過ごせる居室作りがなされている。		

 は、重点項目。